



4 5 7 - 2 3
(化石)

2023年1月

『僕とアンモナイトの1億年冒険記』

相場 大佑 作

(イースト・プレス)

著者は大学の学科選びに失敗し、卒業の前にやりたいことも見つからないまま、大学院へ進むか就職かの選択を迫られました。しかし、自宅で偶然発見した幼少期に読んだ本やアルバムから、恐竜が好きだった気持ちを思い出し、専攻を変えて一から古生物の研究を始めます。

アンモナイトは、殻の内側に隠された複雑な模様、通常とは異なる形を持つ異常巻きアンモナイトなどを含む種類の多さ、まだ明かされていないたくさん謎など、魅力が尽きません。古生物学の神秘的な謎をぜひ感じてみてください。



ニーヤス
(日本の小説)

2024年5月

『6days遭難者たち』

安田 夏菜 作

(講談社)

3人の女子高生が、難易度の低い山にハイキング気分に登り、思い付きで行動して遭難してしまいます。それぞれが事情を抱えて登った山で、道を見失い、怪我をしたり体調不良になって後悔におそわれます。挫折や失望の中から自らを振り返り、生きたいと願った時、3人の運命の歯車はどう動き始めるのでしょうか？

この小説は、私たちの日常が、いかに豊かで安全で恵まれた環境なのか、彼女たちが窮地に陥るたびに思い知らされます。巻末には、山での遭難を防ぐ5か条が紹介されており、登山の準備に役立ちます。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎072-627-4129	畑田町1番51号
おにクル ぶつくばーく	☎072-622-2476	駅前三丁目9番45号 おにクル内
水尾図書館	☎072-637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎072-620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎072-620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：令和7年(2025年)3月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。

令和7年(2025年)

春・夏号



おもしろい本
みつけた!

《中学生・高校生》



1年の間に図書館に入った本を中心に、
幅広くおもしろい本を紹介します。

★ホームページにものっています。

気になる本をみつけたら、
さっそく探してみよう!



茨木市立図書館
おすすめ本のページ



3 7 2 - 2 2
(教育事情)

2022年7月

『6カ国転校生 ナージャの発見』

キリーロバ・ナージャ 作

(集英社インターナショナル)

「ふつう」について考えたことはありますか? 「ふつうはふつうでしょ?」と思うかもしれませんが、国によって「ふつう」は異なります。6カ国の学校に転校したナージャは「小学校の入学年齢」や「夏休みの過ごし方」など、各国の違いに困惑したり驚いたりしながら、多様な学校生活を乗り切っていきます。

「誰かの正解」が「自分の正解」とはかぎりません。さまざまな「ふつう」があると考えられたら、もっと気楽に生きていけそうです。

 茨木市立図書館



ニーヨコ
(日本の小説)

2024年3月

『あしたをみがけ 姫川中学校みがき部』

横沢 彰 作 (新日本出版社)

佐藤 真紀子 絵

灯可理は中学に入学して三か月、友達ができずいつも一人で行動していましたが、浜辺でのある出会いをきっかけにみがき部と関わっていくことになります。拾った石やガラス片を磨くみがき部で、灯可理はお気に入りのヒスイを磨く日々 to 落ち着きます。磨くほどにヒスイが見せる模様は変わっていき、灯可理の中で部員たちとの関係、クラスメイトに対する意識が変わっていきます。「みがき部」は、実際に新潟県の糸魚川中学校に存在する研磨部をモデルにしており、その興味深い部活内容も楽しむことができます。



583-23
(木製品)

2023年1月

『巨大おけを絶やすな! 日本の食文化を未来へつなぐ』

竹内 早希子 作 (岩波書店)

ある日、小豆島の醤油蔵で長く使っていた巨大おけが壊れてしまいます。蔵人の山本さんが新しいおけを発注しようとしたところ、もう次は作る人がいないという衝撃の事実が発覚します。巨大おけづくりの技術や日本の食文化を未来へつなぐため、山本さんと友人たちは、最後のおけ職人に弟子入りをします。

初めてのおけづくりに挑戦したり、どんどん仲間が増えて新しい取り組みを始めたりする姿に、山本さんたちの熱い思いが伝わってくる本です。



404-23
(科学)

2023年3月

『世界でいちばん素敵な理科の教室』

阿部 昌浩 監修・作 (三オブックス)

「お風呂で指がしわしわになるわけは?」「なぜ虫を食べる植物がいるの?」など、ふとした疑問への答えが、一問一答形式で美しい写真と共に紹介されています。理科が苦手な人でも、写真集を見るように読むことができます。この本にある、何気なく目にする現象や、気象、生きものなど様々な自然の中の不思議に興味がわいたり、もっと知りたいと思ったら、ぜひ観察や実験にチャレンジしてみてください。あなたの中の「科学する心」で、慣れた日常がワクワクする世界に変わるのをきっと実感できます。



セースン
(外国の小説)

2024年3月

『闇に願いを』

クリスティーナ・スーントーンヴァット 作 (静山社)

こだま ともこ 訳 辻村 万実 訳

刑務所から逃げた少年ポンは、寺で保護され成長します。刑務所長の娘ノックは、ポンを捕まえようとしませんが、ポンは親友ソムキットに助けられます。総督が生み出す光だけが熱源の町で、少年たちは新たな光を作って総督に立ち向かおうとしていました。皆が自らの正義感で行動し、事態が悪化する中で、彼らの秘密や願いが少しずつ明らかになっていきます。

一人の力は小さくても諦めずに力を合わせる姿が胸を打ちます。友情や善悪とは何かを考えるきっかけになる物語です。



K720
(絵画)

2024年4月

『絵画をみる、絵画をなおす 保存修復の世界』

田口 かおり 作 (偕成社)

歴史を重ねて今も存在する作品を、少しでも良い状態で保存できるように修理をしたり、良い状態を保つ処理をしたりする保存修復。

傷ついた絵画を修復する時には、その絵画がたどってきた過程を調べて適切な道具や素材を選び、培った技術で、細心の注意を払って修復します。著者の、作品や仕事に対する愛が伝わってきます。美術館や博物館にある時代を反映した古い絵画が、修復師の手で甦ったものかと思うと、更に絵画鑑賞を楽しめると感じますよ。



384-23
(生業)

2023年12月

『江戸でバイトやってみた。』

古地図で歩く江戸八百八町職業図鑑 (はっぴやくやちようようず)

櫻庭 由紀子 作 (技術評論社)
くろしま あきら 絵

令和の高校生七緒は、嘉永年間の江戸ヘタイムスリップし、お七となり仕事を紹介してくれる江戸のハローワーク・ロ入口で働きます。

そこで七緒は、江戸の暮らしや様々な仕事を体験します。本に登場する地名・職業・仕事の意味など、写真・古地図・絵を交えながら詳しく書かれていて、聞いたことのある言葉の意味を知り、なるほどと思うことがたくさんあります。江戸時代が舞台のライトノベルと職業図鑑が両方楽しめて、読みごたえがある一冊です。